

Nyonyum 14号

By JICA-VOLUNTEER DAISAKU TAKAGI



第32回 東南アジア競技大会『SEA Games』(SouthEastAsian Games)を観戦！

5月5日～17日の13日間、首都プノンペンを中心に、東南アジア11か国の1万人を超える選手やコーチが参加し、36競技、全581種目で熱戦が繰り広げられました(パラゲームは、6月3日～9日開催)。この間、国内全ての学校を休校とする特別措置があり(私立学校やインターナショナルスクールは、通常通り授業を実施。この措置には賛否両論あり)、この休暇を利用し、大会観戦に行ってきました。自国開催・国際大会ならではの熱気、スポーツの力、そしてカンボジアの発展と未来に向けたパワーを、肌で感じてきました。また各競技を通じて、東南アジアの国々の歴史や文化の一端に触れる機会ともなりました。

『SEA Games』とは？

別名「**東南アジアのオリンピック**」とも言われる。1959年に第1回大会がタイ・バンコクで開催され、その後2年ごとに加盟国が主催国となり開催されている。加盟国は、インドネシア、シンガポール、タイ、東ティモール、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス、カンボジアの11か国。今大会は、第32回目にして、カンボジアが**初めての主催国**となる、カンボジアにとっては記念すべき大会であった。



盛大な開閉式が行われた「国立競技場」(中国の無償援助で建設。総工費1.5億ドル。収容人数約6万人)。敷地内には、選手村のマンション、バスケットボール、バドミントン、テニス、水泳などの競技会場が新設されていました。



4日間で、**ポッカタオ、セバタクロウ、チンロン、ウシュエー、ポビナム**など東南アジアならではの競技を中心に、18競技を観戦しました。



各国独自のユニークな応援も見どころがありました。また各会場では、学生ボランティアの皆さんが、笑顔で出迎え、入場チェック・案内などで、とても気持ちの良い対応してくれました。どうもありがとう！

連載企画 「ボールを渡した国際交流」 part2

昨年12月に所属校・市立札幌藻岩高校から心を込めて送って頂いた15個のボールが、5月下旬に配属先のスパイリエン高校によく届きました！税関での受け取りに時間がかかってしまったこと、その後 JICA 事務所から任地までの配送、さらに学校が長期休業(～5/18)に入っていたこと、などの理由で、約6か月の時間を要してしまいました。早速、このボールを使用させて頂き、球技の授業を行っていくことになります。授業の様子の紹介は、part3にて。



体育担当の副校長先生、体育主任の先生、高校3年生の代表生徒との記念撮影。ボールの多さに驚くと共に、「ありがとう」と何度も述べ喜んでいました！藻岩高校の生徒及び関係者の皆さんに感謝です！



ボールと共に、日本の高校生活(登下校、授業、部活動の様子など)を紹介する動画が送られてきました。雪道を歩いての登下校、調理実習、昼休みのお弁当、体育館での部活動など、両国の学校文化の違いに、時に驚き、また不思議そうな顔もしながら、動画を見入っていました。「**ボールを渡した国際交流**」が、ここから始まります！



東南アジア競技会『SEA Games』の様子と共に、カンボジア(東南アジア)のスポーツ事情を2回に分けて紹介します。

- [クイズ 1] 東京オリンピック2020に参加したカンボジア選手は、何人？(ヒント 日本選手は583人)
- [クイズ 2] カンボジアで一番人気のサッカー、代表監督は日本人。誰？
- [クイズ 3] 女性ファンが多く集まるカンボジアの人気スポーツは、何？



写真は一部、公式サイトより引用しています

1. カンボジアのスポーツ事情

1970年代のポル・ポト政権(第4号で紹介)による教育施設やスポーツ施設の破壊、教員や指導者などの殺害、そして長引く内戦によって、「スポーツ」は、人々にとって遠い存在となっていました。「体育」が、小学校2007年、中学校2016年、高校2019年に導入され、またこの『SEA Games』の開催に合わせて、スポーツの普及や競技力の向上、そのための施設設備の整備や指導者の育成が、少しずつ進められてきました。

～タクシー運転手との会話から～

今大会のサッカーの競技会場となったオリンピックスタジアムは、1964年、カンボジアでの「GANEF0」と言われる国際大会の開催に合わせて建設されました。その後、ポル・ポト政権時代には、なんと遺体の安置所として使用されていたそうです。「約60年の時を経て、この競技場が再び国際大会のスポーツ会場として使用されていることに、喜びを感じる」と感慨深くお話をしてくれました。



【クイズ1 解答】 東京オリンピック2020に出場したカンボジア選手は、特別枠で認められた3名(内訳:水泳2名、陸上1名)のみ。カンボジアでは、オリンピックの存在を知らない人がほとんどです。『SEA Games』では、より多くの国民、特に子どもたちに「スポーツ」に触れてほしいとの願いから、全ての競技の観戦チケットが無料、またSNS(カンボジア人の多くはfacebookを利用)を通じて、各種競技の様子がLIVE中継されていました。配属先の生徒の多くも、大会開催期間中、何らかのスポーツを観戦していました。

2. 二大人気スポーツ

「サッカー」と「バレーボール」は、特に大きな盛り上がりを見せていました。会場は超満員、観客の熱狂ぶりには目を見張るものがありました。また任地では、カンボジアの試合については、大型スクリーンが設置され、子どもも大人も、皆で試合を観戦していました。ボール一つで遊ぶことができるという点で、内戦後も途絶えることなく地域に根付いていったのでしょうか。日頃から、夕暮れ時には、サッカーやバレーを楽しむ光景をあちこちで目にすることができます。

【クイズ2 解答】



サッカーの代表監督は、元日本代表の**本田圭佑***さん。今大会、グループリーグで敗退してしまいましたが、「カンボジアのサッカーのレベルを上げてくれた」と、多くの国民が彼にリスペクトの気持ちを抱いていました。

国としても、競技の普及と強化に力を入れており、2005年から、プロリーグ(現在13チーム)が発足。また現在、3名の協力隊員が、「職種:サッカー」で、ジュニア世代の育成を中心とした活動を行っています。

*「SEA Games」終了後、代表監督を退任。



手作りのネットとコート。高校生でも、支柱は木の棒を用いたり、身近でかつ安く手に入るもので簡単に作ってしまいます。

3. 伝統競技

体育の授業でも行っているカンボジアの伝統競技「**ボッカタオ**」「**ベタンク**」(第6号で紹介)も、今大会の人気種目でした。ホンモノを生で観戦し、授業に向けてしっかりと研究を行ってきました。



クローマーと言われる伝統布の着用(腰)、また競技中には伝統楽器による演奏が鳴り響くなど、伝統的な儀式を見ているようでした。



目標物にぴったりとつける正確なショット、相手のボールをはじき出す豪快なショット、好プレーの連発に大歓声があがっていました。

4. 意外な人気スポーツ

【クイズ3 解答】 **水泳**。国内のプールの数が限られ、競技人口・競技力は発展途上ですが、TikTokなどのSNSを賑わせているイケメンスイマーが、多くの女性ファンを虜にしているそうです。また、昨年まで、「職種:水泳」の協力隊員が、ナショナルチームに派遣され、現地のコーチと共に、選手の指導を行っていました。



記念撮影を求め、ファンが長蛇の列を作っていました。